

令和7年4月 市長定例記者会見

令和7年4月1日(火)

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから定例記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 先月、北陸新幹線敦賀開業1周年ということで、敦賀のほうでは15日、16日の2日間、街波祭ということでさせていただきましたけれども、天気は悪かったんですけどもお客さんは本当にたくさん来ていただいて、市民の方がイベントをやって、そこに市民と観光客が来ているという、本当に見ていてうれしくなるような光景が2日間繰り広げられたなということで、引き続きこの雰囲気大切にしていきたいと思ひますし、いつも言っていることですが、開業効果、それから開業後しばらくたてば新幹線効果という言い方になるかと思うんですが、そこをしっかりと発現していけるように頑張っていきたいなと思ひております。

それから、今日から新年度ということで、敦賀市の市役所としても組織改正も行いましたし、そういう意味では新しい体制ということになります。部署でいうと文化交流部というのを新設いたしましたし、部署も新しいものもできたということで、今後、敦賀市でいろいろ楽しみなことも含めて課題がありますけれども、しっかりと新しい体制の下、取り組んでいきたいなと思ひております。

私のほうから冒頭は以上です。

【広報広聴課長】 本日は事業発表はございませんので、早速ですが、フリーの質問対応をさせていただきますと思ひます。

初めに幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 昨日コメントもいただいたところですが、昨日、日本原電さんが再調査の計画公表が遅れるという発表をされたということで、改めて市長のご所感をお伺いしたいです。

【市長】 そうですね。もう一回、再審査に向けて取り組んでいくんだということですから、それに向けてしっかりとデータを取っていくということが事業者さんとしては必要なんだろうと思ひますし、そういう意味では、どういうデータをそろえていくのかということの検討をもう少し時間をかけてやられるということですから、そこはしっかりとやっ

ていただいて、再審査に向けて取り組んでいただけたらなと思っています。

【記者】 それともう一つ、社長の会見中の言葉で、一回不許可になったものについて、それを覆していくというのはハードルが高いというようなご発言があったようなのですが、少しこれまでのコメントに比べると少し慎重になっているコメントをされているのかなというように見たんですけれども、敦賀市と原電さんとのやり取りの中で、何か原電さん側の姿勢で変化を感じたりされることはありますでしょうか。

【市長】 特にはないですね。再審査に向けてしっかりやっていきますということを聞いているという感じです。多分一般論として、一回不許可になったものという言い方をされたのかなとは想像しますけれども、先ほどどういうデータを取っていくのかということ言えば、やはり一度不許可になったということは、そのときのデータでは覆らないということだと思いますから、どういうデータをもってして事業をやっていくということを証明していくのか、説明していくのかというところをしっかりとやっていっていただきたいなと思っているということです。

【記者】 先日、敦賀市のまちづくり観光部から北陸新幹線開業1年の市内7か所の来場者数のデータをいただいたんですけれども、それで7か所の平均値で36%増で、コミュニティバスなどの二次交通が25%増というデータをいただいたんですけれども、その受け止めに一言いただきたいです。

【市長】 本当に好調な数字だなと思っています。多分お手元にあるのは、市のほうが所管している施設のデータだと思うんですけれども、もちろん民間のほうの例えば飲食をやっているところですか物販をやっているところというのも好調だと聞いていますので、これを維持していきたいなということが一つあります。

それから、先月も申し上げたかと思うんですけれども、これをいかにこれからずっと継続していくかというところが大事だなと思っているということです。

それからもう一つが、できるだけ多くの市民の方にこの効果というものが行き渡るように我々も考えていく必要があるなと。あと行き渡っていてもなかなか気がつかないということもあるかもしれませんので、そこは我々としては、何か確かにそう言われてみると新幹線効果って出ているよねと思ってもらえるようなデータの提示というのはしていきたいなと。これは前から言っていることですが、そういうことは考えているということです。

【記者】 施設が36%で二次交通が25%増というところで、こういった努力とか取組

がその数字につながったと分析されていますか。

【市長】 二次交通とかいうのもすごく心配されていたんですよね、開業前とかは。しっかりと観光客、それから敦賀に来られる方を目的地まで連れていけるのかということがあって、本当にいろんな取組、ダイヤの見直しだったりとか、自転車、レンタサイクルのほうだったらそれを増やしてみるとか、ステーションを増やすとか、そういうことをいろいろやってきて、たくさん来られる人にしっかりと対応できているということなのだと思います。

なかなか、実はいろんな取組をする中で思ったほど利用されなかったと、二次交通関係でも、そういうものもありますし、そういうもので言うと、いろんなことを我々トライしながら、実際に来られた方々がそれをうまく利用していただいているところは利用していただいているんだなと思っています。

それから施設関係も、この1年間はいろんなイベントとかも打っていただきましたし、そういう各所管施設というのは、例えば指定管理で民間のほうで運営していただいているというところもありますけれども、そういうところの経営努力というのも実を結んだのではないかなと思っています。

【記者】 1年目の結果が出たということで、2年目に入っていくということで、2年目の数値目標などがあればお願いします。

【市長】 具体的に数値目標までは持っていないんですけども、イメージとしては維持していきたいなと思っています。いつも私言うんですけど、ピークが立つというのは仕方ないと思うんですよね。開業した日の3月16日が一番人が多く来ているというのは、それはそうだろうと。そこから減っていくのはある程度は仕方ないんですけども、やっぱり新幹線が来る前に比べて増えているというところをキープしたいなと思っています。

【記者】 では、キープしていくというところで、市として、あとアクションプログラムの実施主体とかいろいろありますけど、どのように取り組んでいきたい、どういう姿勢で取り組んでいきたいか、お願いします。

【市長】 基本的には、まちづくりと観光を絡めたものとしてアクションプログラムがあって、それをしっかりやっていく。要はこれからそういうことを持続していくために何をやらなければいけないかというのがあそこに計画されているということですから、あれをしっかりとやっていくということがあります。

それから、その一環になるかと思うんですけども、これもいつも言っているんです

けど、飲食だったりとかはまだ足りてないと思っているんですよね。駅のほうのホテルの稼働率を見ましても、それから本町にまた一つホテルができるということを考えても、まだまだビジネスチャンスというのはあって、それがあから、ビジネスチャンスがあるから魅力UP補助金とかも新幹線開業後のほうがむしろよく使っていただいているという現状があるんですけども、本当にこういう補助金などを生かしていただいて、民間の方にもこのビジネスチャンスの中でいろんな飲食だったり物販のビジネスをやっていただくというのが受皿づくりということで言うと、それからこの効果を持続していくということだと、大切になってくるのかなと思っています。

【記者】 先ほど挨拶の中で、文化交流部というのが出たと思うんですけど、文化交流部、1日、今日から新しく創設、新設されるということで、どういった役割に期待しているとか、どのようにやっていきたいということがあればお願いします。

【市長】 やはり最終的に文化交流部の目的というのは、文化、例えばスポーツもそうですし、あと文化芸術、そういう活動を敦賀で今まで以上に活性化していくというのが一つ大きい役割だと思っています。

何で教育委員会から移したかということの説明もさせていただいたと思うんですが、もう一回言ってみますと、やはり文化活動にしる、それからスポーツ活動にしる、教育の範疇を超えていろんな活動をされている方がいるということから、やはり幅広くそれを捉えて市としても対応していくというのが敦賀市としての文化、それからスポーツ活動を盛り上げていくにはいいだろうと。

そしてまた、文化とスポーツの分野は、敦賀市としても多くの施設を持っていますから、その施設というのはまちづくりにも生かしていけるだろうということ。それから、文化、スポーツで市外からいろんな大会だったりとかそういうことで交流が出てきますので、そういうことをひっくるめて文化交流部というところで文化、スポーツを盛り上げていく。そして施設を十分に活用していく。そこに市内、市外から多くの人交流してくれるということをやっていくことによって敦賀市全体を活性化していくということが部の大きい目標かなと思っていますので、そのように進めていきたいと思っています。

【広報広聴課長】 それでは次に各社さんよりお願いしたいと思います。何かございますでしょうか。

【記者】 金ヶ崎緑地の整備について伺います。

2月に住民の説明会のほうも行われて、非常に高い期待、関心がある話題だと思うんで

すけど、一方で民間の担当エリアの整備見通しがまだ立っていないという状況であると思うんですけど、今年度どのように整備計画を進めていきたいかという意気込みをよろしくをお願いします。

【市長】 民間の施設のほうについては、我々としては、しっかりと経営をやっているめどを立てて、その上で進出してきてほしいというのがあります。そういう意味では、今慎重に民間のほうで検討いただいているということで、多分当初の我々の思っていたスケジュール感よりはもちろん少し後ろにはなっているんですけども、そこは慎重に検討していただいて堅実な経営計画を持って出てきていただける分には十分検討していただけたらそれでいいのではないかと考えています。

一方で、いつもこれも説明していますが、緑地の部分の周りのほう、我々が購入したJRの土地とかありますけれども、そこは本当に15年来の敦賀市としての計画がありますので、それを実現していくということで、コンセプト的には鉄道だとか、あと金ヶ崎とのつながりですね、例えば桜だったりとかそういうことを生かしたようなデザインの公園にしていけたらなと思っています。

とはいえ、金ヶ崎緑地のほうの民間施設との関係というのもありますから、そこはうまく調整していきながら、全体として調和の取れるそういうエリアにしていきたいなと思っていますということで、実際、公園エリアのほうについては今年度予算をしっかりと持っていますし、土地はもちろん購入しましたし、これからどうするんだということの計画を立てる予算というのは取っていますので、そういうのはしっかりと進めていきたいなと思っています。

【記者】 あと、敦賀2号機の話で少し私のほうからもお聞きしたいんですけど、原電側が追加調査の計画について今年度末に示しますと言って示せなかった形になりまして、昨日の社長会見でも社長自身が自分の見通しが甘かったというようなことを話していたみたいなんですけど、市として、そもそもの見通しの甘さというか見通しの立て方について、今回延期になったことをどのように思われているのか、改めてよろしくお願いします。

【市長】 別に我々が原電さんと約束をしたわけではないんですけども、原電さんは昨年度中だということで表明をされておりましたので、そういう意味では少し残念な気持ちはありますけれども、やはり一つ大きい山をクリアするためにどういうデータが必要なんだということで、しっかりと今調査をされているということの証左でもありますから、今回遅れたのは先ほども言いましたけれども少し残念な気持ちはありますけれども、頑張っ

て前に進めていただけたらなと思っています。

【記者】 話がまた戻って恐縮なんですけれども、主要観光施設の入り込み数ですけれども、おおむね9カ月とかの数字とそんなに変わってないというか、堅調に推移されているのかなと思うんですけれども、やはり月日の経過とともにやや微減となっているかなと思うんですけれども、そのあたり冬場なんかは雪の影響とかそういったようなこともあったのでしょうか。そのあたり、何か分析されているようなことがあれば教えていただけますでしょうか。

【市長】 確かに議論しているときに、天気の影響はあったのかなみたいなことも言っていたんですけれども、例えば2年、3年たたないとその比較もできないかもしれないなと思います。

どちらにしても、昨年度はやはりピーク、開業効果が一番発現された年であることは間違いないので、これから下がり得る可能性もあるんだろうなと思っていて、考え方としてはどのように思っているかという、やはり開業前よりは増えているというところをしっかりと確保していきたいということ。それから、じわじわと落ちていくのではなくて、どこかで下げ止まるような形でしっかりと効果部分を確保する。この何%というのがずっと同じようなパーセントでどこかで維持できるような形にしていきたいなと思っています。

理想的には、金沢とかの観光客の入り込み数がそんな感じなんですよね。開業後4、5年は維持していたというのがあって、そこからコロナがあってデータがよく分からなくなってしまったんですけれども、そのようになるといいなと思っています。

【記者】 あともう1点、先ほども質問されていましたが金ヶ崎のほうですけれども、事業者さんは慎重にいろんな検討をされているということでしょうけれども、県なり市なりのいろんな支援といいますか、予算措置とかもにらみつつ、いつまでも検討を見続けるということも難しいのかなと思うんですけれども、今の時点でどこかでお尻といいますか、今協定を結んでいらっしゃる業者さんがいらっしゃいますけれども、例えば別の事業者さんと何か手を組んで開発をするとか、どこか検討の期限というのは今の時点で何かお考えはあるのでしょうか。

【市長】 これは県との絡みもありますけれども、今のところ期限というのは設けてはないです。ただ、あまり長いことになっていくと、それはそれで周辺部分の計画とかも立てにくくなってくるということもありますので、あまり遅くなるということは、そちらの会社さんとしても、事業者さんとしてもないというか、どこかで経営判断をしなきゃいけない

いのは向こうも同じ事情だと思いますので、2年、3年ずっと引きずるのか、これ以上やるのかというと、多分それは向こうの都合としてもないと我々は思っているので、遠からず何らかの結論は出るのかなと思っています。

それまでは、ほかの業者さんとかそういうことも考える必要はないのかなと思っています。

【記者】 全く話は変わるんですけども、先日、市の区長連合会さんのほうから議員さんの定数削減の要望書が出されていて、いろんな県内市町、いろんな議会でも定数削減の要望が出ていたり、報酬引き上げのいろんな議論があったりしていますけれども、敦賀市議会さん、直近でも2つ減らしていますけれども、議員の定数の数、市長のお立場でなかなか発言はあれかもしれませんが、ああいった要望が出てきたことについて、市内で区長さんの集まり、代表からということで決して軽くはないと思うんですけども、そのあたりはどういったようなご認識でしょうか。

【市長】 区長連合会さんと我々はよく話をする機会もあるんですけども、私そのときにいつも申し上げているのは、私からは何も言いませんと。定数というか議員さんが減るということは、どうなんですかね。議会答弁するときとか、ひょっとしたら楽になるのかもしれませんが、だからといってそうしたほうがいいと我々は言う立場でもないし、いろんな意見があって、減らすことが市政のためになるのかというのも我々の立場では言わないほうがいいと思いますし。ということを区長連合会さんにも私は言っていますので、特にこれについてはコメントはしないですね。

時々それこそ首長の選挙で、議員定数削減を公約にされる方とかがいますけど、私は筋が違うのではないかと思いますので、首長の立場からそれを申し上げるのはすぐわない、控えたいと思います。

【広報広聴課長】 そのほかございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

午後1時50分終了